

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

5

月号

2018年5月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

合唱団の皆様の温かい人間性に心が打たれ清らかになりました

ウィーン岐阜合唱団 コージュ高鷲の合宿に参加して

小出隆司(先生よりの寄稿)

久しぶりの長距離運転で緊張しましたが、無事合宿練習の会場に到着して桜の花と白い木蓮の花、さらに玄関前の残雪の山に驚き感嘆しました。残雪の山並みを望みながら美しい高鷲の自然とおいしい空気を胸一杯に吸い込みました。

声がまともに出なくなりましたが、平光先生や伴先生の熱のこもったご指導に時間の経つのを忘れました。夕方、『ぞうれっしゃがやってきた』に関わるエピソードをお話しする時間をとっていただき、気分良く語らせていただきましたが、いろんな思いが錯綜して舌足らずの講義になったことを申し訳なく思っています。

最近の内外の指導者の理性を超えた言動に不安と怒りに近い感情を抱きながら生活している私ですが、逆に、こんな時だから何を大切にすべきか、今何をすべきかを考えながら、『ぞうれっしゃの世界と子供たち』について、この歴史を創っていただいた、北王英一園長さんをはじめ多くの関係者の方々の想いを重ねつつ、語り部としての務めをさせていただきます。

来年は『ぞうれっしゃ』が走って70年を迎えます。皆様方とこのメモリアルヒストリーを深く受け止め明日につなげていきたいと思えます。

最近、歴史教育者協議会の会員の方々により『日本の戦争と動物たち』(汐文社)【1巻=戦場に連れていかれた動物たち。2巻=戦争に利用された動物たち。いずれも(東海林次男著)。第3巻=動物園から消えた動物たち。(牛田守彦・平井美津子著)企画 本庄豊】児童向き、および『学び舎 中学歴史教科書』(著者:安井俊夫他32名)などが編集・出版されました。象列車について記述してくださいました、多くの児童・生徒さんに読んでいただきたい本です。

さて、『ぞうれっしゃがやってきた』を私に創らせた児童たちは、50歳近くになっています。各地で活躍してくれていることでしょう。今年、80歳に

絵本『ぞうれっしゃがやってきた』著者なる私は、時々当時に思いを馳せています。2回目の1年生の担任をさせていただいた時、入学式の後、教室で先生との約束をしましょうと【一に遊べ、二に遊べ、三に食べて、四に寝よ、時間があったら勉強しよう】。と言った後、職員室に戻ると、校長先生に呼び出され、ある父母から抗議の電話があったと聞かされました。子供にとって、遊びこそ大切な学習の場だと考えたが、「やってしまった!!」と思いました。でも、この時の親子は素敵でした。日曜日は、子供たちの祖父が竹馬作りをしてくれました。父母同伴で近隣の田畑へ農作業などの見学をしたり、消防署を訪ねたりしました。集合住宅の会議室で夜、絵本の読書会もしました。今から考えると幸せな教育活動でした。記念の学級文集もできました。父母と教師の信頼関係が子供を育てる基本ですね。

この絵本は、そんな環境の下で生まれました。用紙もままならず、自宅に手刷りの印刷機と用紙を買いこの作品の基になる教材パンフレットを作りました。そのきっかけは、上野動物園の『かわいそうなぞう』を読んであげた時、子供たちは、「どうして動物たちはころされたの?」と泣きました。困惑した私は、名古屋の象が守られたことを話しました。すると、「その話を詳しくして」と、1カ月にわたりせがみました。

「なぜ名古屋の象は守れたの?」「園長さんたちはどのようにして象を守ったの?」子供たちの事実を知りたいという探求心が、この絵本を創る原動力になりました。そして、北王さんをはじめ関係者の皆さんの証言が得られました。「二度と戦争をしてはいけない事を子供たちと学習してくださいよ」絵本の自主出版を許可して下さった園長さんのお言葉でした。そのテーマが、私の半生以上の取り組みとなりました。

団長に就任するに当たって

ウィーン岐阜合唱団 団長 臼井 博育

団長のご指名を受け、団長の役をお預かりすることになりました、臼井博育と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

8年間の森島前団長の功績は大きく、何の取柄もない私がお後を引き継ぐには正直言って負担が重くのしかかります。

森島前団長は、平光先生、伴先生の信頼も厚く、先生方の音楽の方針をスタッフ、団員へしっかりと浸透を図られました。また、合唱団の各種行事を精力的に推進され多くの団員が参加できるように、自ら団員に声をかけられました。そういった日常的な活動の積み重ねがあり、昨年の3月末にウィーン岐阜合唱団が岐阜県から名誉ある平成28年度岐阜県芸術文化顕彰を受賞することができました。

森島さん、本当に長い間ありがとうございました。今後ともご指導方よろしくお願いいいたします。

さて、ウィーン岐阜合唱団は、楽しく魅力ある大変忙しい合唱団だと自覚しております。

1月27、28日の岐阜県主催の杉原千畝物語・オペラ「人道の桜」出演に始まり、春の合宿、夏の定期演奏会、紅葉ツアー、一万人の第九、12月の第九演奏会、今年は、第9回ヨーロッパ音楽・友好の旅があり(5月23日~6月2日)リトアニアのカウナスで第九演奏会を開催いたします。

団員の皆さんは、これらの団の多くの行事に関わりながら団の魅力に魅了され深くウィーン岐阜合唱団を愛されているのではないのでしょうか。私もその一人です。

毎週、木、金曜日の充実した練習が合唱団活動の源、パワーとなっています。そして平光先生をはじめとした諸先生方の高度な指導を受けながら、今年も年2回の演奏会を頂点として団員一丸となってその成功に向けて頑

張っていきたいと思います。

先ずは、7月29日の第21回定期演奏会です。1月から取り組んできた音楽物語「ぞうれっしゃがやってきた」も初めて楽譜を開いてから4ヶ月が経過しました。合宿も終わり、後半の音楽創りに入ってきていますが、はたして私たちはこの曲の内面、原作者の意図するところを時代背景と共に理解しようとしているでしょうか。

原作者の小出隆司先生が著書の中で、「止めどもない軍拡競争では、決して世界の平和は実現しません。」と述べられています。世界各地で地域紛争、戦闘拡大によりおびたしい人たちが、傷つき、命を落としています。

“なぜ”このような悲惨なことが起こるのか。わたしたちは、その原因に目を向ける必要を感じます。殺し、殺され、憎しみの連鎖の中では、憎悪しか生み出しません。

「にんげんのいのちをいつくしむところを、どうぶつのいのちをいつくしむところを、こどもたちよいつまでも、わすれないでほしい」

の歌詞にあるように平和の大切さを私たちは、歌により表現でき、訴える事が出来ます。

7月29日の定期演奏会に向けて歌詞の持つ意味を理解し、美しい歌のハーモニー、心のハーモニーを奏で平和の尊さをお客様の心にお届けしたいと思います。最後に、わたしは団長として大それたことはできませんが、これからも、平光先生の音楽づくりを団員と共に理解するよう努め、和子先生、真由子先生に発声を学び、歌として表現できるように団員と共に研鑽したいと思います。もはや、私にとって趣味以上の存在となっているウィーン岐阜合唱団を愛し、全団員と共に地域で愛され、地域に奉仕できる合唱団を目指しこれからも努力をしていきたいと思っています。

合宿に参加して

平成30年4月21(土)～22(日) 於:コージュ高鷲

岐阜本部 アルト 土田 由子

桜の花びらが舞うコージュ高鷲。水仙やチューリップ、しだれ桜はまだつぼみがついて、生命力があふれていました。そんな中行われた二日間の合宿は、定期演奏会に向けとても有意義なものでした。

何と言っても、絵本『ぞうれっしやがやってきた』原作者の小出隆司先生が初日から合宿に参加して下さり、テナーと一緒に歌われ、気さくなお人柄を感じることができたのは貴重でした。そして特別講話では、穏やかな口調の名古屋弁で、戦時中の大変な経験、動物園や象列車に関する事などたくさんのお話を話して下さいました。その中にはご自分が生み出された絵本に対する深い愛おしみと、そして何よりも子供たちの幸せや世界の平和に対する強い意志を感じました。

二日目にはドラマ「象列車がやってきた」のDVDを見せて頂き、今までは歌詞から自分で想像していたものが具体的に映像化され、クマが処分される場面やゾウの小さな訴えるような目、そして必死で動物を守ろうとする人たちの表情に涙が溢れてしまいました。

午後からは園長さん役の井上博嗣先生が来て下さいました。児童合唱団を教えておられるようで、それがいかにもという優しそうな雰囲気と魅力的なお声が園長さんにぴったりだと、本番が楽しみになりました。

そして通し稽古では、伴先生が思わず「怖～い！すごい迫力。」とおっしゃった軍人役の臼井さん。そして児童部分を歌われたパートリーダーさんたちの可愛い声には皆が笑顔になりました。表現力の豊かさに脱帽です。

この曲には悲しい場面があるので今までは少し苦手意識がありました。でも今回の合宿を通して、それが実際に東山動物園で起きた事であり、その様に人々を動かした戦争というもの、またその中でも周りに流されず普通の心を持ち続けた動物園の人たちの忍耐と頑張り、そして後に人々が我に返った時にそのことが子供たちや人々に希望をもたらしたこと、それらをこの曲を通して伝えていく必要があると改めて思いました。

小出先生が絵本を書くために東山動物園の園長であった方を訪ねても、なかなか当時のことを話されず、何度も訪問され少しずつ聞かれたのは、実は思い出すのも辛くて話せなかったためとのこと。もちろんその時代の

すべての人たちが心や体に大きな傷を負っている。それが戦争というものです。日頃つい忘れがちですが、今も世界では国のトップが自分たちの主張のために同じようなことを繰り返しており、本当に悲しいことです。

本番で一緒に歌ってくれる子供たちは、きっと可愛くて、元気いっぱい歌ってくれるだろうと今から楽しみにしています。そしてこの舞台によって、今はあまり判らなくても後に、小出先生の思いが子供たちの心に深く届いて芽を出す、そんな種がまかれたらいいなど、そして聴いて下さるお客様の心にも種がたくさん飛び散って、平和への願いの蕾みや花がいっぱい育てば良いと思います。そのためにも感じてもらえるよう、考えてもらえるよう、皆が心を一つにして歌うことが大切なんだろうと。

合宿の初日、伴先生に発声の基礎を再度教えて頂きましたが、その時に不思議な感覚がありました。丁寧に音を重ねていくよう指導して頂き、きれいにハーモニーが整ったときに、ウワンウワンという大きな音の波のようなものを耳というか頭部に感じたのです。練習場の後ろの壁の陶板画に音響反射板のような効果があるのでは、と教えて頂きましたが、そのせいなのか、天井の高さのせいなのか、もしかしたら私の耳のせいなのか、とにかく初めての経験でしたので驚きました。詳しいことはわかりませんが、皆の声が響き、うまく周波数が合って共鳴すると威力が倍増して、それが聴く人の体に伝わり、そして心に感じるのではないかと、自分なりにそんな風に考えています。

ミニコンサートでは先生方の歌やピアノを聴き、もっと聴きたいなと思いましたし、夕食後のお楽しみ会でも皆で次々と歌い、音楽いっぱいの楽しい二日間でした。

合宿の準備など普段からいろいろお世話下さっているスタッフの方々に感謝したいと思います。

そしてもちろん、音楽を愛し根気よく指導して下さいる先生方に、そして音楽を通して人の輪が広がって多くの素晴らしい方々に合わせて頂けることにも、改めて感謝したいと思います。

音楽って形こそないけれど、象の体のように大きな、大きな力を持っているものですね。

5~7月練習予定

練習時間は18:45~20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

月日	岐阜	月日	大垣
5月10日(木)	長森コミュニティーセンター	5月11日(金)	大垣市南地区センター
5月18日(金) 岐阜・大垣 合同練習 瑞穂市(穂積)総合センター2F 多目的ホール			
5月24日(木)	長森コミュニティーセンター	5月25日(金)	大垣市南地区センター
5月31日(木)	長森コミュニティーセンター	6月1日(金)	大垣市南地区センター
6月7日(木)	長森コミュニティーセンター	6月8日(金)	大垣市南地区センター
6月14日(木)	長森コミュニティーセンター	6月15日(金)	大垣市南地区センター
6月21日(木)	長森コミュニティーセンター	6月22日(金)	大垣市南地区センター
6月28日(木)	長森コミュニティーセンター	6月29日(金)	大垣市南地区センター
7月5日(木)	長森コミュニティーセンター	7月6日(金)	大垣市南地区センター
7月12日(木)	長森コミュニティーセンター	7月13日(金)	大垣市南地区センター
7月15日(日) ながら児童合唱団と共に強化練習 長森コミュニティーセンター 13:30~17:00 合唱団練習(その内 13:30~15:30 ながら児童合唱団と共に)			
7月19日(木)	長森コミュニティーセンター	7月20日(金)	大垣市南地区センター
7月22日(日) ながら児童合唱団と共に 長森コミュニティーセンター 9:30~13:00 合唱団の練習(その内 11:30~13:00 ながら児童合唱団と共に予定)			
7月26日(木) 大垣市北地区センター 18:30~20:00 (オケ合わせ)合唱団のみ			
7月28日(土) ながら児童合唱団と共に(最終確認練習) 長森コミュニティーセンター 9:30~12:00(合唱団のみ) 岐阜市北部コミュニティーセンター 13:30~15:30 ながら児童合唱団と共に			
7月29日(日) ウィーン岐阜合唱団 定期演奏会 於:岐阜市民会館大ホール 14:00 開演			

戦争

父の三回忌の法要を営み、やっと父の部屋の整理をする気になり、少しずつ片付けをしていました。

ある日、父の机の引き出しの奥から、大切に包まれた一枚の小さな四角い白い布が出てきました。妹と二人で見ると、血で描かれた日の丸に、父の母親と兄弟から出征する父への血染めの励ましの言葉が書き綴られたものでした。「頑張れ お国のために」と、悲しくも力強く書かれました。長い年月を経て、まだ焦ることない血痕を、しみじみと眺め、過去の忌まわしい戦争に思いを馳せ、胸が締めつけられ、涙がにじみましました。家族は、こんな辛い気持ちで、大切に育てた子供を戦地に送ったのだと思うと、忘れてはいけない過酷な現実だったことを再確認させられました。母や家族の思いはいつの世も同じだと思います。

幸い、父は兄とともに帰還することができましたが、多くの犠牲になられた方々に与えられた命だということを一時も忘れたことはなかったでしょう。多くの方が戦争という悲惨な出来事で父、母、兄弟、親族を亡くされました。この事は、決して忘れてはならない事です。あつてはならない事です。そのことを、後世に伝えていくのが私たちの置かれた使命だと思うからです。幸い、父はその後には幸せな日々であったことも間違いのないと思います。父は91歳まで命をいただきましたが、父の遺影のそばにこの布を置いて、犠牲になられた方々のことを思い、供養をして過ごしている毎日です。岐阜市在住 S・森山 h30.05.05

今年の2月から我がウィーン岐阜合唱団のピアノ伴奏をお願いしている卯野先生をご紹介します。

卯野杏実(うの あずみ)

岐阜県出身。4歳よりピアノを始め、馬場マサヨ、長野量雄、鈴木謙一郎、北住淳の各氏に師事。名古屋市立菊里高等学校、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。第5回岐阜国際音楽祭 一般専門部門 文化人特別賞、第23回日本クラシック音楽コンクール全国大会ピアノ部門 一般女子の部 第3位(最高位)、第18回大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 Age-G 第2位受賞等。ワルシャワ・フィルハーモニー交響楽団の首席奏者らと、シューマンのピアノ・トリオ第1番を共演等、各種コンサートに出演。ミラン・ランガー氏、トーマス・クロイツベルガー氏、タマーシュ・ヴァーシャーリ氏、カジミエシ・ギエルジョド氏のマスタークラスを受講。ウィーンマスターコース、ポーランド国立ショパン音楽大学夏期セミナーを受講し、ディプロマ取得、修了コンサートに出演。2016年、岐阜にてピアノリサイタルを開催。現在、東海地方を中心に、ソロや室内楽、また、合唱・器楽の伴奏など様々な演奏活動をしなが、後進の指導を行っている。